

公表

事業所における自己評価結果



公表日 2025年12月28日

事業所名		チェック項目					公表日	
ティン・ビスコ-バ-学芸大学別邸							2025年12月28日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		法令遵守したスペースに加え、十分余裕のあるスペースを用意しています。			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		児童指導員を配置し、利用児童の特性や必要に応じた個別サポートができる体制になるように心がけています。			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		高齢者との共生型事業所なので、利用児童の身体の状態に必要なバリアフリーは達成できています。			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		リラックスできるソファや、人と緩やかに繋がれるテーブルや椅子で安心して過ごせるように環境として心がけています。			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		バーテーションを用いたり、休めるスペースを用意しています。			
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		職員のカンファレンスにおいて、それぞれの児童の振り返りを行い、今後の支援の目標や手立てについて検討を行い、内容を共有しています。			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		保護者向けの事業所アンケートを実施し、ご意見をもとに業務の見直しや改善を行なっています。			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		療育や環境についても職員全員がSlackグループで全体に向けて、個別にも情報や意見の発信ができる仕組みにしています。			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○		今後、第三者機関による外部評価の実施も検討中です。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		毎月の社内研修の実施、及び、外部研修情報を社内情報システムで共有し、積極的な受講を推奨しています。	事業所の年間研修計画に加え、個人の「自分育て研修計画」を策定し、目標を設定、必要な研修を受講するようにしています。		

適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。		○		「自ら」考えて行動できるようにすることを目標としています。とはいえ、なかなか1人で考えられない部分もありあすので、職員と相談しながら、「一日一善」をキャッチフレーズに、事業所内で手伝えることはないかを自ら探してみたり、自分が興味あることを探求したりと、過ごし方を相談して決めています。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		定期的にアセスメントを行い、保護者との対話の中で、療育的なニーズを共有し、個別支援計画に反映するようにしています。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。		○		共生型施設のため、専任の児発管は不在ですが、個々の児童の担当児童指導員がモニタリング記録を報告、法人内会議を設定し、個別支援計画を策定を検討しています。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		児童指導員だけでなく、介護職員も交えて、児童のアセスメントと個別支援計画書の内容を共有し、連携して支援を行なっています。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		職員研修等の場で、アセスメントについて共有ができるようにしています。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		本人の状態像に合わせて人との関わりの経験を積み上げることで、社会性を身につけていきます。「自分で判断し、行動できること」を第一に知識よりも思考力や判断力・行動力を重視し、主体的・協働的に動けるように支援するとともに、自己決定力を育てます。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		利用児童のやってみたい！を叶えるプログラム実現のために、各職員の得意分野を生かし、立案しています。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		年間行事での季節感等を取り入れたプログラムを企画していたり、利用児童の興味や特性に合わせたプログラムや、生活スキル向上のための環境があります。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		1日の過ごしの中で集団活動と個別活動を適宜組み合わせるプログラムを取り入れています。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		利用時間の前後に現場での打ち合わせを行い、利用児童の支援について情報共有を行なっています。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		支援終了後の振り返りは、児童一人一人について、職員間で情報共有や気づきの共有を行なっています。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		児童一人一人について振り返り記録を利用毎に行ない、指導の検証・改善と職員のスキルアップに役立てています。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		個別支援計画期間に応じてモニタリングを行い、新たな個別支援計画の立案に活かしています。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○		将来の自立支援のための総合サポート型の事業所として「多世代との関わり」「コミュニケーション力向上」「学習」を軸に社会性を養います。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		過ごし方を自己決定して見通しを持って活動することを軸として支援をしています。	

関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		こどもの状況に応じて、そのこどもを理解している人間が参画しています。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		該当する児童の利用は、現在のところありませんが、要請に応じて、連携を行なっています。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		保護者様を通じて、必要な情報共有を行なっています。必要や保護者様からの要請に応じて、連携を行なっています。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。		○		該当する児童の利用は、現在のところありません。継続した支援のため、できる限り情報共有を行うようにしています。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。		○		該当する児童の利用は、現在のところありません。必要に応じた情報共有に努め、利用終了後の療育環境が良くなるように努めます。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○		事業所見学をしていただき、情報共有を図るとともに、助言は積極的に支援計画に活かすようにしています。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		○		外部児童との交流は慎重に行なってまいります。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○		目黒区障害者自立支援協議会主催の会には積極的に参加をしています。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		連絡帳では、日々の取り組みをお伝えするだけでなく、それぞれの児童の「きらり」を共有し、自尊感情を高めながら、課題について共有を図っています。	
保護者への説明等	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		○		事業所での様子や、見立て・手立てを共有することにより、一貫した関わりを持てるようにしています。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約の際及び、法改正などのタイミングで適切な説明を行うようにしています。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		保護者、児童本人との定期的な面談のほか、都度連絡をとりながらその時の課題やニーズを相互理解するようにしています。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		半年に1回モニタリングの面談を実施し、個別支援計画書に同意を得ています。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		お迎えの際や個別面談、LINEを通じて保護者からの相談を受け、必要な助言を行うようにしています。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	○		同法人のグローバーキッズ学芸大学と合同で保護者会を開催し、日々のお迎え時での保護者同士で情報交換や連携だけでなく機会を設けることができるようにしていきます。	
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		苦情対応窓口を用意し、迅速に対応できるようにしています。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		毎回連絡帳を通じて療育のねらいと取り組みについて案内を行うようにしています。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		個人情報は、鍵付きのキャビネットに保管するなど個人情報の保護を行います。療育の情報共有も参加者限定のSlackグループで行うようにしています。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		個々の事情や特性に応じた情報伝達に努めています。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		高齢者は地域との交流は本来積極的に進めており、利用児童も参加する形で進めていきたいと考えております。	

非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		緊急時対応マニュアルなどを整備し、非常時の対応を行えるようにしています。事業所内、入り口に避難経路を掲示し、日頃から確認できるようにしています。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		業務継続計画（BCP）を策定し、年2回以上避難訓練を行なっています。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		保護者様と連携して、必要な医療情報を共有させていただいております。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		利用児童のアレルギーの一覧表を作成し、おやつ等の際にチェックを行うようにしています。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		職員は、2ヶ月に1回、子どもの安全確保のためのチェックリストをして、研修と訓練を行なっています。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		保護者様には年に1回「緊急時対応カード」の記入と提出をお願いしており、緊急時に迅速に連絡と対応ができるよう努めています。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハット事例については、当日中に報告書を作成し、再発防止に活かしています。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		マニュアルを整備し、職員にはチェックリストを実施しております。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		マニュアルを整備し、研修等により職員に周知しています。保護者に対しては契約時に説明を行い、必要に応じて個別支援計画に記載しています。	